



Report 3 豊かな自然を後世へ 第24回「中国山地・豊かな自然」写真コンテスト

中国山地の自然や風物を撮影した写真の表現性や独創性を競い、美しい自然を後世へと引き継ぐことを目的に開催される第24回「中国山地・豊かな自然」写真コンテストの表彰式が3月26日、比和文化会館で開催されました。

全国から343点の応募があり、その中から33点が入賞。受賞者には賞状と記念品が贈られました。

表彰後、受賞者は受賞作品が展示された特別展示室へ移動し、受賞作品を鑑賞しながら、一人一人写真を撮影した時の情景を説明し合いました。

主催した比和自然科学博物館の中村慎吾館長は「中国山地の情景を収めた写真は博物館としても貴重な資料であり財産。今後もこのコンテストを続け、豊かな自然を後世へと伝えていきたい」と話していました。

入賞作品は7月20日～8月29日までの期間、比和自然科学博物館で展示される予定です。



▲入賞作品を鑑賞する皆さん

Report 4 新たな庭を加え今年も花と緑のまちづくり 庄原さとやまオープンガーデン2013春



▲庭を楽しむ来訪者

しょうばら花会議会員が自宅の庭を一般公開する「庄原さとやまオープンガーデン2013春」が4月13日からスタートしました。公開庭は昨年より4庭増え、市内で30庭が公開されています。

市役所近くで初公開した佐藤庭の庭主、佐藤勉さんは「身近な玄関先から街に緑を」をコンセプトに、癒やしを求めて庭作りを楽しんでいます。

『まちなかの小さな庭』をタイトルに作られた庭は、石を使った和風の庭や花壇、育てたオリーブの木を配し、季節の花を楽しめるよう手入れされており、来訪者からは「まちなかでほっと憩える可愛らしいお庭ですね」と、笑顔と会話が弾み交流の輪が広がっています。

この庄原さとやまオープンガーデン2013春は、6月16日（土・日・月曜日限定）まで。

Report 5 伝統催事を地域で再現 くちわ旧暦ひなまつり

3月31日から4月6日までの期間、「くちわ旧暦ひなまつり」が口和自治振興センターで開催されました。

ひなまつりは明治以降、新暦の3月3日に祝う風習として定着していますが、口和地域ではそれ以前から桃の咲く4月3日頃に行われていた伝統催事を「旧暦ひなまつり」として再現し、長年続けています。

初日はほとぎの販売や音楽ミニライブ、本の読み聞かせなどのミニイベントが開催され、期間中は町内の方が個人で所有している昔ながらの七段飾りや三次人形、掛け軸などが展示されました。そのほか短歌や俳句、写真コンテストなどの作品も展示され、来場者は展示品を一つ一つじっくりと鑑賞していました。



▲ひな祭りにちなんだ曲でミニライブ

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 春の陽気と甘い香りに誘われ多くの人 備北と桜のスイーツ祭

備北観光ネットワーク協議会が主催する「備北の桜とスイーツ祭り」が4月14日、上野総合公園で開催され、約1万人の来場者でにぎわいました。

備北地域のスイーツを食べ比べ、来場者の投票によってグランプリを決定する「スイーツコンテスト」には8団体が参加し、三次市の高原安瀬平乳業の「黄金のプリン」がグランプリに選ばれました。

また、「三海二山グランマルシェ」として、太平洋、日本海、瀬戸内海の海の幸と、中国、四国山地の山の幸を集めた市場には県内外から10団体が出店。香川県の「オリーブサイダー」などのご当地ドリンクも人気でした。

ステージイベントでは、地元の神楽や太鼓が会場を盛り上げ、来場者はさとやまの食と文化を堪能しました。



▲多くの人でにぎわう会場

Report 2 ニジマスを釣ってつかんで大喜び 田総川マス釣り大会



◀ニジマスゲット！

田総川漁業協同組合が主催するマス釣り大会が4月14日、総領町のなかつくに公園で開催されました。

この大会は放流されたニジマスを釣り上げ、その大きさや数などを競います。

絶好の釣り日和となったこの日約30人が参加し、みんな真剣な面持ちで水面を見つめ、大物がかかるのを今か今かと待ち構えていました。

また、この日はニジマス釣りと同時に小学生以下の子どもを対象としたニジマスのつかみ取りも開かれ、参加した子どもたちははしゃぎながらも、逃げるニジマスを捕まえようと夢中で追いかけていました。

参加者は「40センチ超えの大物が釣れてびっくりした。釣れたときの感触がとても気持ち良かった」と喜んでいました。



▲糸を垂らし大物を狙らう参加者



Report 6

写真で振り返る日常

I ターンの高岡さんが空き家を活用し写真展

西城町の高岡舞由美さんが4月13日から20日までの8日間、空き家となっている同町本町の旧田村商店で、スナップ写真展『西城people』を開催しました。

昨年、西城町へIターンしてきた和歌山県出身の高岡さんは、移住してからの1年間、町内のさまざまな場所で出会う人々の表情や日常の風景をカメラに収めてきました。その撮りためた作品の中から選りすぐりの作品約100点を『西城の人』というテーマで展示。

来場した地元の方は「知っている顔がたくさん写っていて話が尽きない。毎日、何気なく見ている風景も写真にして見るとすてきに見える」と話していました。

期間中は西城のおみやげ品の販売のほか、平日には

布ぞうりづくりや紙の家に絵を描く工作、土日にはサムデイシェフによるカフェも開かれ、地元の人々が集う憩いの場にもなりました。



▲知っている顔を見つけ会話が弾む

Report 7

逃すなシャッターチャンス！

山王さん祭早駆馬神事

勇壮な早駆馬神事で知られる山王さん祭が4月21日、山内町の日吉神社で行われました。

この神事は、戦国時代、甲山城主山内首藤隆道が、尼子との合戦で戦況が極めて不利だったとき、山王権現(日吉神社)に勝利祈願し合戦に挑み、騎馬武者三騎の活躍で大勝利をおさめたことに由来します。

当日は、写真コンテストが行われることもあり、カメラを持った多くの人でにぎわいました。

早くから訪れたカメラマンたちは、ベストショットを求めて各所に陣取り、三騎の早駆馬が駆け上がるタイミングを見計らいながら、思い思いにシャッターを切っていました。

また、奉納されている八幡太郎義家着用の甲冑「赤糸緘鎧」(国重要文化財)も公開されました。



▲多くのカメラマンがシャッターチャンスを狙う

Report 8

悲しい事故から命の尊さを学ぶ

栗田小学校児童が水難慰霊碑を清掃

栗田小学校の6年生3人が3月14日、帝釈峡の神龍湖に建立されている水難慰霊碑の清掃活動を行いました。

毎年、卒業式を間近に控えた同小6年生が参加しているこの活動は、今年で5回を数えます。

湖面を見下ろす場所に建てられているこの慰霊碑は、79年前、栗田小学校の修学旅行団を乗せた遊覧船が神龍湖で沈没し、児童12人と教師2人が死亡するという悲しい事故を悼んで建てられたものです。

この日児童は約1時間かけて丹念に碑を磨き上げた後、元神石高原町文化財保護委員の伊藤尹さんから当時の状況を詳しく聞きました。伊藤さんは「この清掃活動が遊歩道のゴミが減るきっかけとなり、周囲が以前より美しく保たれるようになった」と語り、その後み

んなで慰霊碑に花を供えました。

参加した一人の持田朋也くんは「この活動に参加して命の尊さを学ぶことができた。ぜひ、後輩に引き継いでもらいたい」と話していました。



▲慰霊碑を磨き上げる児童